

機械器具 56 採血又は輸血用器具  
 管理医療機器 単回使用採血用針 35209002

セーフティ翼付採血セット

再使用禁止

【禁忌・禁止】

再使用禁止

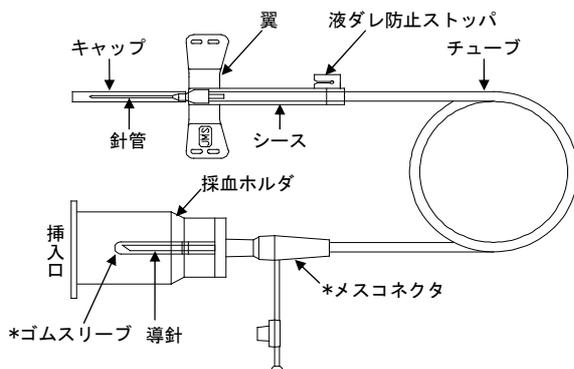
〈使用方法〉

1. 採血終了後、真空採血管に導針が刺さったままの状態で駆血帯を外さないこと。[駆血帯を外すことによる圧力の変動により、真空採血管内の内容物等が患者の体内に逆流するおそれがある。]
2. 採血ホルダは患者ごとの使用とし、使用後は廃棄すること。[採血ホルダに血液が付着した場合は、交差感染のおそれがある。]

\*【形状・構造及び原理等】

キャップ、針管、翼、シース、液ダレ防止ストッパ、チューブ、メスコネクタ、導針、採血ホルダからなる。使用後、シースに針管を引き込み、誤穿刺を防止する。本品には翼付針と採血ホルダが一体型のものと、採血ホルダ単品のものがある。

〈構成(代表例)〉



\* 針管にはステンレス鋼を使用している。

・本品はポリ塩化ビニル(可塑剤：フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用している。

〈仕様〉

項目	性能
耐圧性	150kPa
引張強度	15N
ゴムスリーブの耐圧性	13kPa

【使用目的又は効果】

血液検査のため、真空採血管を用いて、静脈からの採血に用いる。

\*\*【使用方法等】

〈翼付針、採血ホルダー一体型の場合〉

1. 穿刺及び採血
  - (1) あらかじめ手袋を着用します。
  - (2) 包装から本品を取り出します。
  - (3) 患者に駆血帯を装着し、採血部位を確認して消毒します。
  - (4) 翼を折りたたんでつまみ、キャップをまっすぐ引いて外します。
  - (5) 針管を血管に穿刺してチューブ内に血液が流入するのを確認します。
  - (6) 針管が動かないように注意して翼を広げた後、テープ等で固定します。
  - (7) 真空採血管を採血ホルダにまっすぐ完全に押し込み、採血を

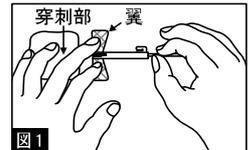
行います。

- (8) 採血の血流が停止したら、直ちに真空採血管を採血ホルダから外します。
- (9) 連続採血する場合には、採血ホルダを固定したまま、真空採血管を取り替えます。
- (10) 採血が終了したら、真空採血管を採血ホルダから抜去した後に駆血帯を外します。

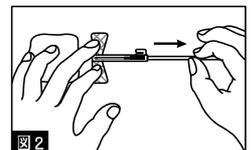
2. 抜針

(1) 片手操作の場合

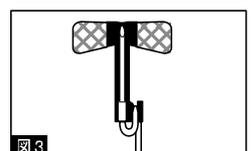
- 1) 穿刺状態のまま穿刺部と翼を動かないように片手で固定し、もう一方の手でチューブをつまみます。(図1)



- \*2) チューブを後方に引っ張り、針管を抜きながらシース内に完全に収納させます。完全に収納された場合はクリック感が生じます。(図2)

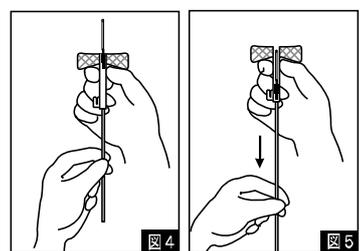


- 3) チューブをシース後方の液ダレ防止ストッパに挟みます。(図3)



(2) 両手操作の場合

- 1) 針管を抜いた後、シースを片手に持ち、もう一方の手でチューブをつまみます。(図4)



- \*2) チューブを後方に引っ張り、針管をシース内に完全に収納させます。完全に収納された場合はクリック感が生じます。(図5)

- 3) チューブをシース後方の液ダレ防止ストッパに挟みます。(図3)

〈採血ホルダ単品の場合〉

1. あらかじめ手袋を着用します。
2. 包装から本品を取り出し、翼付針等と緩みや外れが生じないようにしっかりと接続します。
3. 患者に駆血帯を装着し、採血部位を確認して消毒します。
4. 接続した翼付針等の添付文書の指示に準じて穿刺を行い、テープ等で固定します。
5. 真空採血管を採血ホルダにまっすぐ完全に押し込み、採血を行います。
6. 採血の血流が停止したら、直ちに真空採血管を採血ホルダから外します。
7. 連続採血をする場合には、採血ホルダを固定したまま、真空採血管を取り替えます。
8. 採血が終了したら、真空採血管を採血ホルダから抜去した後に駆血帯を外します。
9. 針管を抜き、誤穿刺に注意しながら適切に処置します。

〈使用方法等に関連する使用上の注意〉

- \*1. 個包装を開封する際は、はさみ等の刃物を使用しないこと。[本品を傷つけ、液漏れが生じるおそれがある。]
2. 開封時に接続部の緩みや外れがないことを確認してから使用すること。
3. 採血ホルダ単品の場合、翼付針等との接続は確実にを行い、使用中は外れや緩みに注意すること。

4. 真空採血管を採血ホルダに挿入する際は、導針に対し真空採血管が斜めにならないように注意すること。[ゴムスリーブが正常に戻らず、血液漏れが生じるおそれがある。]
5. 真空採血管を採血ホルダに挿入し、血液を流入させている間は、真空採血管が押し戻されないように手で押さえておくこと。
- \*\*6. チューブを鉗子等で傷つけないよう注意すること。[鉗子の根元又は先端で閉塞すると、チューブが破損し液漏れ、空気混入等が生じるおそれがある。]
- \*7. 抜針時の針管の収納に際しては、チューブをクリック感が生じるまで引いて収納すること。[針管が再突出するおそれがある。]

## \*\*【使用上の注意】

〈重要な基本的注意〉

- \*\*1. 品番末尾がNの製品の場合、外径サイズが17.5mmを超えるオーバーキャップ付の真空採血管を使用しないこと。 [採血ホルダに完全に挿入できないため、採血ができない。]
2. 使用中は、穿刺位置のずれ、固定部分の外れ、緩みについて注意すること。[穿刺位置の固定が十分でない場合、針先で血管を傷つけるおそれがある。]
- \*\*3. 本品はポリ塩化ビニルの可塑剤であるフタル酸ジ(2-エチルヘキシル)が溶出するおそれがあるので注意すること。

〈不具合・有害事象〉

1. その他の不具合  
逆流、空気混入、漏れ、外れ、緩み、誤穿刺、切断、破損、針の再突出
2. その他の有害事象  
皮下血腫、血管迷走神経反応、神経損傷、静脈炎、血管外漏出

## 【保管方法及び有効期間等】

〈有効期間〉

3年 [自己認証(当社データ)による]  
包装の使用期限欄を参照すること。

## 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者  
株式会社ジェイ・エム・エス  
電話番号：082-243-5806